

現状と課題

- 主伐による伐採が増加している中、全国的にみると十分な成長量と蓄積が確保されているものの、その一方で伐採が活発に行われる地域などもあり、伐採状況には地域毎のバラツキがみられる。
- また、林業に適した場所でも再造林が行われていない森林もあり、地域レベルで将来の森林資源の持続的な利用を確保するためには、持続的に主伐が可能となる伐採量について、川上から川下までの関係者間で認識を共有することが必要。

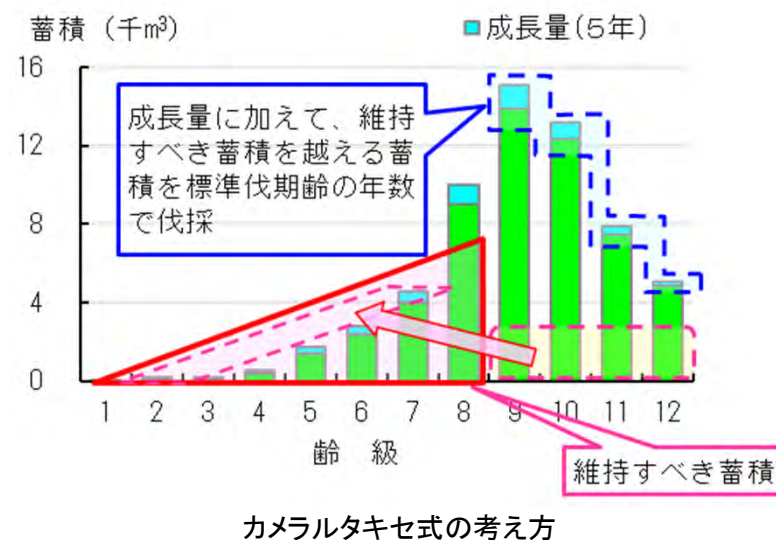
対応方向

- 地域森林計画の主伐計画量は、森林・林業基本計画に定められた「指向する森林」へ、資源量を踏まえつつ計画的に誘導するために設定したものであり、持続的な主伐が可能となる伐採量ではない。

→地域森林計画の樹立等に当たっては、従前通り伐採計画量を設定するとともに、育成単層林として維持すべき森林を対象に、カメラルタキセ式を適用した上で、再造林率を乗じる等により持続的伐採可能量※を算出し、計画量の検討に活用する。

→この再造林率に応じた持続的伐採可能量については、地域森林計画書に参考資料として添付する。

※将来にわたって（標準伐期程度）一定の再造林率が継続した場合の人工林資源構成（想定）をもとに算出した持続的に伐採可能な主伐上限量の目安



計算方法

- 市町村森林整備計画のゾーニングにおける下記の区域を集計

- ・ 公益的機能別施業森林以外の森林のうち、木材等生産機能維持増進森林である森林
- ・ 水源涵養機能維持増進森林のうち、他の公益的機能別施業森林と重複していない森林

蓄積
成長量

カメラルタキセ式
による計算

主伐（皆伐）
上限量の目安

× 再造林率

再造林率に
応じた持続的
伐採可能量

○記載イメージ

(附)参考資料

7 その他

(2) 持続的伐採可能量

第 1 表 主伐（皆伐）上限量の目安（年間） 単位 材積：千 m³

主伐（皆伐）上限量の目安

第 2 表 持続的伐採可能量（年間） 単位 再造林率：％ 材積：千 m³

再造林率	持続的伐採可能量	間伐立木材積	合計
100			
90			
80			
70			
60			
50			
40			
30			
20			
10			

○具体的な計算方法

- 主伐（皆伐）上限量の目安（年間）は、森林資源の保続を可能とする指標として、カメラルタキセ式を用いて算出

【主伐（皆伐）上限量の目安（年間）の計算式】

$$E = Z_w + \frac{V_w - V_n}{Ta}$$

E：伐採（皆伐）材積の目安
Ta：更新期間
Zw：対象森林の期首時の年間成長量
Vw：対象森林の期首時の立木材積
Vn：基準立木材積
（対象森林が標準伐期齢に達した場合の立木材積の1/2）

- 再造林率に応じた持続的伐採可能量（年間）は、上記上限量の目安に再造林率を乗じて算出

【再造林率に応じた持続的可能量（年間）の計算式】

$$E_A = E \times A$$

E_A：再造林率に応じた持続的伐採可能量（年間）
A：再造林率